

本田技研・環境整備センター見学会報告書

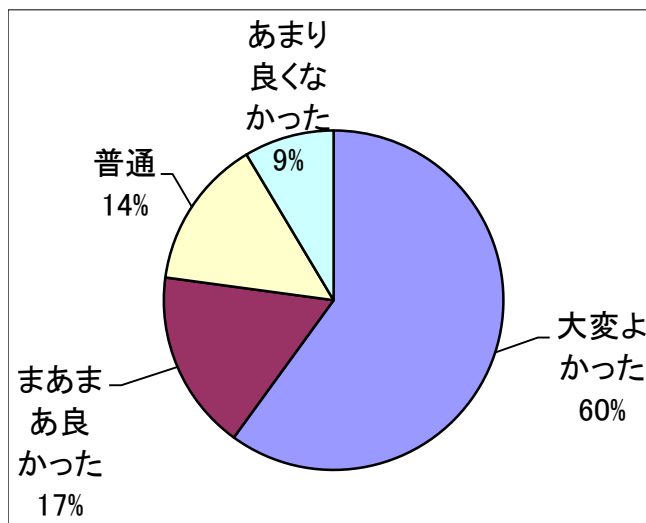
2017年5月24日(水)実施

アンケート回答率 100%

入間市環境まちづくり会議
地球温暖化防止部会

1. 環境整備センターの見学は良かったですか？

大変よかった	21
まあまあよかった	6
普通	5
良くなかった	3
計	35



・感想お聞かせください。(回答)

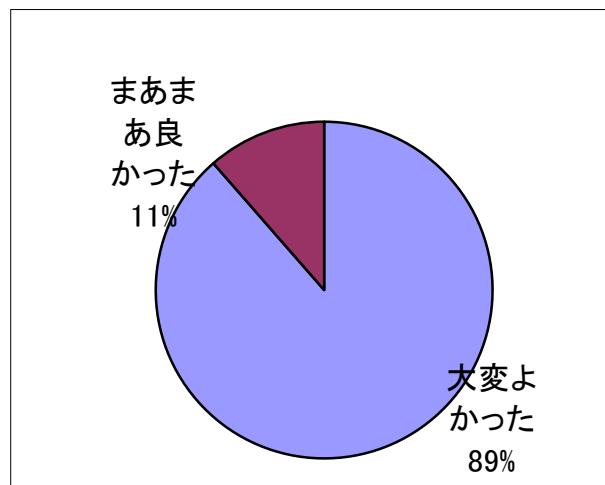
- (1)メガソーラーは説明不足なのでは。
- (2)ごみの分別の大切さが解かった。
- (3)ごみの取り扱い区分の重要性を再認識した。
- (4)ごみの分別が大切と思った。
- (5)見学者の受入れが慣れていないのでは。
- (6)ごみの分別をしっかりと再認識した。
- (7)ソーラーパネルが光ってなかったのにちっとびっくりしました。
- (8)ソーラーパネルの実寸大があればもっとよく理解できたと思った。
- (9)メガソーラー、環境サービスも規模が大きいだけで余り感動なし。
- (10)職場の環境の悪い中で職員のの方々に感謝、ごみの分別の重要性を実感した。
- (11)ごみはしっかりと分別しようと思いました。働く人の苦労を考えました。
- (12)塩化ビニールの最終処分の大変さが良く判った。
- (13)自治体と市民との更なるごみ分別意識の向上の必要性を感じた。
- (14)ごみ分別の大変さを実感した、各家庭できっちりと分別すれば楽になる、無駄なコストがかからなくなる。
- (15)いつものごみ分別を更に気をつけて分別して出すようにいたします。
- (16)リサイクルの大変さが良く判り参加して大変良かったと思います。
- (17)環境サービスのRPF製造は予想以上にアナログでびっくりした。分別の必要性を非常に感じた。
- (18)市民全部に見せて意識改革をすべきです。資源ごみもきたなくして出しているのには驚き、手で分別しているのには申し訳ないことです。

2. 本田技研の見学は良かったですか？

大変よかった	31
まあまあよかった	4
計	35

・感想お聞かせください。(回答)

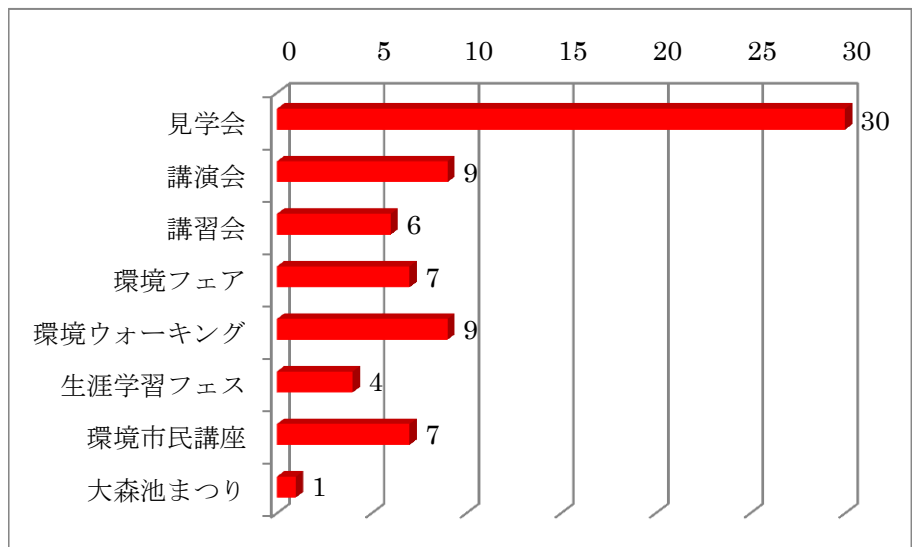
- (1)再度見学したい！
- (2)ロボットの多さにびっくりしました。
- (3)ホンダ車に乗っているのが感心しました。
- (4)ロボットの多さにびっくり。
- (5)近代化に感動しました。
- (6)もう少し時間をかけて見学したかった。時間不足



- (7) 社員食堂で食べたかった。
- (8) もう一度来たい。
- (9) もっと色々見たかった。時間が足りない。社食が気になる。
- (10) 初めての見学体験でした。ただただ唖然として感動した。
- (11) ただただびっくりしました。
- (12) お迎え、見送りまで大変お世話になりました。
- (13) ロボットの種類と多さと省スペース化、短縮化に目を見張った。
- (14) 溶接の自動化でオペレーターが数名しかいない、素晴らしい。
- (15) 最新の設備で車が造られていく様子、素晴らしいですね。
- (16) かなりの部分が自動化(ロボット)されておりとても参考になりました。
- (17) 初めて見たロボットの動きの素晴らしさに感動しました。日本の技術の凄さに敬意を表したい(韓国 HyunDai に負けないで)。

**3. 今後もし参加するとしたら
どんな行事に参加しますか？**
(複数回答あり)

N=73



感想など

1. 今回は「広報いるま」で募集したが定員に達することができなかった。見学日当日は市内の様々な総会や集会などの行事と重複したためと思われる、そのため知り合いに見学会参加を呼び掛けた所、最終的には38名となった。
2. バスは36名、ドタキャンは2名、天候は一日中曇り、参加費は¥3000(昼食は個人負担)
3. コース: 入間市役所発8時05分 → 埼玉環境整備センター(サイサンメガソーラーと環境サービス) → 道の駅はなぞの(昼食) → 本田技研寄居工場 → 入間市役所16時50分着
4. 埼玉環境整備センター(サイサンメガソーラー)は
ごみを埋め立てた場所の上にソーラーパネルを設置、所々にメタンガスが抜きがあり、パネルの設置角度は10°、パネルの枚数は1万6384枚、発電出力は2621kw、建設費は9億円、当初の東京電力との契約は¥40で20年間、年間予想発電量は278万kWh、やはり発電量が多いのは4月5月が一番多いとの担当者の説明があり。
5. 埼玉環境整備センター(環境サービス)は
埼玉県が計画した「彩の国資源循環工場」内にあり廃プラスチックを中心としたマテリアルリサイクル及び RPF(固形燃料 Refuse Paper & Plastic Fuel)の製造を行っている。廃プラスチック処理施設(処理量 50t/日)である。
粗破碎、手選別、機械選別等により、選別された廃プラスチックを、その品質に応じて、良質で組成の明確な廃プラスチックについては、再破碎しマテリアルリサイクル用(再生品原料)として生産。
その他の廃プラスチックは、紙くず・木くずと混合・破碎・減容し、固形燃料(RPF)を生産、大手製紙メーカー等にて石炭の代替燃料として使われる。
当初予想したオートメ化した工場ではなく意外にもアナログ(手選別)な方法で分別しているのには驚かされた。作業者の苦勞が判るような気がした。ごみ分別で一番苦勞しているのは塩化ビニールが混じらないかと言う事であった。

6. 本田技研寄居工場は 2013 年に稼働スタートし、Honda の革新技术を投入して作られた、年間 25 万台の生産能力を持ち、小川エンジン工場で生産されたエンジンの供給を受け、車体のプレス加工から完成車検査、出荷までを行っている。フィットやヴェゼルなどの小型車を効率よく生産。世界の小型車生産工場を牽引していく役割を持って世界最新鋭の工場となっている。
 今回見学された方々は大量のロボットが大活躍しているのにはびっくりしている方が多かった。
7. 今回は出発時間を8時00分としたところ田中入間市長が偶然にも通りかかりバスの中の見学者に対し挨拶をお願いした所快く引き受けてくれて市政の現状など簡単に説明していただいた。今回の見学会は時間的に余裕があり早めに入間市役所に帰着することが出来た。環境課のみなさんご協力ありがとうございました。



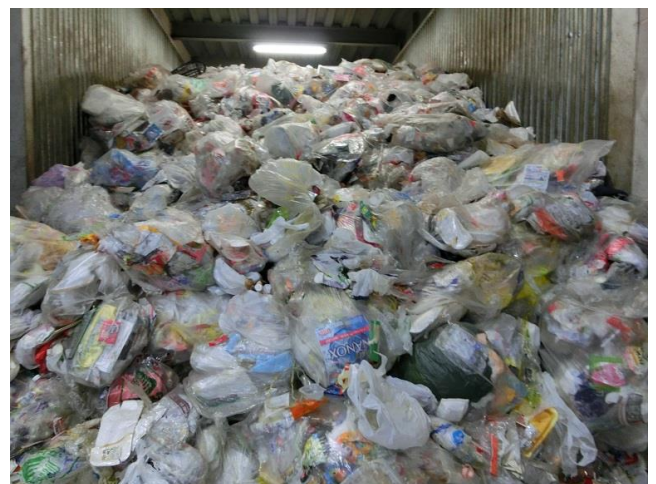
現在の発電状況が見れる掲示板



1万6000枚のソーラーパネル



手選別



搬入されたプラスチックごみ



完成された RPF(固形燃料)



温度計で管理している



本田技研寄居工場にて



本多進記